地域の話題　沼田町

「住みたい田舎」ベストランキングで全国2位！移住者とともにつくる、地域の明るい未来

雑誌『田舎暮らしの本』が発表する2021年版「住みたい田舎」ベストランキングで総合2位、シニア部門では1位に輝いた沼田町。少子高齢化が進み、人口減少は多くの地方都市が抱える共通の課題。その解決策を探るとき、都市部からの移住者受け入れが一筋の光となっている。コロナ禍で“田舎暮らし”が注目を集める中、沼田町は移住者受け入れにどのような施策を講じてきたのか、町の移住定住応援室にお話を伺った。

「ほたるの里」としても知られる、自然豊かなまち沼田町

沼田町住民生活課
移住定住応援室　室長
渡辺 忍 氏

沼田町住民生活課
移住定住応援室
岩井 俊直 氏

――雑誌『田舎暮らしの本』の「住みたい田舎」ベストランキング総合2位に輝きました。どのようなランキングなのですか?

『田舎暮らしの本』（写真1）は、宝島社から発行されている月刊誌です。全国さまざまな場所での田舎暮らしを紹介する雑誌で、毎年、「住みたい田舎」ベストランキングを発表しています。このランキングは、移住定住の促進に積極的な市町村が、移住支援策、医療、子育て、自然環境、就労支援、移住者数など272項目のアンケートに回答し、その採点によって順位が決められます。今回は645の自治体がアンケートに回答したそうです。人口10万人以上の「大きな市」、人口10万人未満の「小さな市」、「町」、「村」の4グループごとに、全世代対象の【総合部門】のほか【若者世代部門】【子育て世代部門】【シニア世代部門】の全4部門で評価されます。沼田町は「町」の【シニア世代部門】で1位、その他3部門すべてで2位に選ばれました。ちなみに同じ「町」ランキングで【総合部門】【若者世代部門】【子育て世代部門】の1位を獲得したのは、島根県飯南町でした。

シニア世代での1位に加え、そのほかも2位にランクインしていることから、全世代にとって住みやすいまちであることが評価されていると思います。

写真1
宝島社発行の月刊誌『田舎暮らしの本』。「住みたい田舎」ベストランキングを掲載した2021年2月号

――移住定住促進については、いつごろから力を入れて取り組んできたのでしょうか。

平成28年に住民生活課の中に「移住定住応援室」を立ち上げました。どこのまちでも同じだと思いますが、少子高齢化で人口減少が進む中、なんとかまちの衰退を食い止めたいというのが切実な想いでした。それまで役場には移住を専門に扱う部署はなかったのですが、移住定住応援室を立ち上げ、移住に関することはPR活動から住居探し、求職、転入に関する手続きまで、すべてワンストップでできるようにしました。

移住定住に力を入れるにあたって、ほかの自治体をモデルケースにしたことはなく、すべて独自に考えてやってきました。もともと、「子育て満足度日本一」を掲げてまちづくりに取り組んできましたので、移住者に限らずすべての町民にとって、子育てしやすい環境を整えることに職員一同、心を砕いています。今回もそのあたりの評価が結果につながったのではないでしょうか。

PR活動は東京で開かれる移住フェアなどのイベントに参加するなど地道に広報してきました。

――暮らしやすいまちづくりを目指す施策を教えてください。

子育てに関して、特徴的なのは小中学校の「一貫・連携教育」です。町内には小学校と中学校が1校ずつあるのですが、小中の教員が連携し、お互いの授業を視察したり、乗り入れ授業も行ったりしています。沼田学園の1年生から9年生のような感じで、一貫教育に等しい取り組みを行っています。こども園も1つあるので、そこからつながっているというイメージです。4年ほど前からこの取り組みを行っていますが、よく聞く「中一ギャップ」などの問題も回避でき、「全国学力・学習状況調査」では沼田町の子どもたちの学力が明らかに伸びていることがわかっています。

それから、米どころの沼田町として、今年度から子育て世帯にお米を1俵（60kg）ずつ無償で配布することが決まっています。

――移住者向けに特化した取り組みや制度には、どんなものがありますか。

沼田町は豪雪地帯です。道外からの移住者にとっては、雪の不安がつきもの。雪かきはどうするのか、どんな車に乗ったらいいのか、滑らない靴はどんなのかなど、いろいろとわからないことがあると思います。そこで移住者向けにガイドブックを作って配布しています（写真2）。沼田町での暮らしのことがよくわかるような内容になっています。また、移住定住に特化したホームページも作成して、情報を提供しています（写真3）。

写真2　沼田町での暮らしに関する情報がわかるガイドブック。移住者インタビューなども掲載し、暮らす人の目線で見た沼田町を紹介

写真3　町のこと、求人情報、助成金や住宅に関する情報などをわかりやすく網羅した移住定住情報公式サイト https://teiju.com/

ほかには、移住者交流会を年に10回ほど開催しています。たとえば、沼田の土を使って陶芸をやっている方がいるので陶芸の集いを開いて、住民と移住者の方々が一緒に体験したり、移住してきた方の地元の料理をみんなで作って食べたり。あとは、農家さんのピザ窯で沼田の野菜でピザをつくったこともあります。元からいる住民も移住してきた方々もみんなで楽しむ機会です。

制度としては、住居や仕事の紹介、住宅費用の助成、引っ越し費用の一部助成、就農支援、町外への通勤費一部補助などもあります。

――移住者が増えたことで、住民の意識やまちに変化はありましたか?

以前は町内の学校に転校生が来ることはほとんどありませんでした。あっても数年に1人くらい。でも今は、毎年いろいろな学年に何人か転校生がやって来るようになりました。子どもたちの意識も大きく変化しています。

中学校の学校祭で、フィールドワークの成果を発表する機会があるのですが、従来は地域のお祭りについて調べて発表するのが主流でした。ところが最近は、「沼田町は移住を頑張っているまち」というテーマで発表するなど、人の流れを通して移住を実感することで、故郷への意識も高まっているのではないでしょうか。それがうれしいですね。

あとは、町内会の集まりなどに移住してきた若い世代も加わるようになって、活気が出てきました。一時活動を中断していた町内のバドミントンサークルが復活し、いろいろな世代の交流の場にもなっています(写真4、5)。

実際、高齢者の方々からも「若い人が増えて活気が出たね」という声も聞こえています。

写真4　バドミントンサークルの様子

写真5　移住者交流会の様子

――移住者は沼田町に何を求めて来ているのでしょうか。

これまで移住してきた方々は、道内各地から道外までさまざまですが、やはり「ゆっくり過ごしたい」とか「家族との時間を持ちたい」といった希望を持っていらっしゃっている方が多いようです。

実際に移住後の感想を聞いてみると、「ゆったり過ごそうと思っていたけど、意外と忙しい」といった声が多く、よく聞いてみると、家族と過ごす時間が増えて、家族で出かけたり、イベントごとに参加したりといったことで忙しくされているようです。首都圏で生活していた方々は、それまで平日は仕事が終わると家に帰ってお風呂に入って寝るだけだったのに、ここでは5時半には帰宅できる生活なので、お子さんを習い事に連れて行ったり、家族で食事をしたり、そういったかけがえのない時間を楽しんでいるようです。

「スノーボード三昧の生活が送りたい」と東京から家族で移住してきた方がいますが、冬になると町内のスキー場に通って貸し切り状態でスノーボードを思う存分滑れるので、理想の暮らしができているそうです(写真6)。

写真6　パウダースノーが楽しめる沼田町営高穂スキー場。
中心部から車で約10分

――沼田町で暮らす魅力を教えてください。

ひと言で表すならば、北海道暮らしをイメージした時に思い浮かぶことがすべてある、ということではないでしょうか。広々とした空間、のどかな風景、おいしい農作物にきれいな空気。それから雪も。雪に関しては、除雪が行き届いているので、町内で不便を感じることはないと自負しています。

『田舎暮らしの本』のランキングで評価された、住みやすさのポイントには、「生活に必要な施設が半径500m圏内に揃い、徒歩生活ができる」「住宅取得の奨励金が充実」「妊娠・出産・子育て、教育に手厚い支援」「店舗取得や改装などへの助成」「新規就農者への町独自の支援あり」などがありました。

町内には診療所やカフェ、ジムなどを併設する「暮らしの安心センター」(写真7)やコワーキングスペース、温泉、町営プールなど、住民のための様々な施設が充実しています。

町の一大イベント「夜高あんどん祭り」は、町民一丸となって、あんどんの制作を行うので連帯感が生まれ、住民同士の仲が良いことも自慢のひとつです。コミュニティとしてまとまりのあるまちだと思います。

また仕事や買い物は町内でもできますが、道央自動車道に接続する深川・留萌自動車道のおかげで深川や旭川も通勤圏ですし、札幌も日帰り圏内です。

田舎暮らしのいい点をいろいろ備えているので、これからもたくさんの方々の移住を受け入れるべく、より一層の体制を整えていきたいと思います。

写真7　医療・福祉・子育て・介護の要素を1ヵ所に集約した施設

移住者インタビュー

沼田産クラフトビールで開業を目指し、東京から移住

村上信吾 さん

2020年7月に地域おこし協力隊として、妻、娘とともに東京から移住。北海道紋別市出身。

大学入学を機に北海道から上京し、卒業後もそのまま東京で仕事をしていました。都内で飲食店を経営していましたが、入居する駅ビルが再開発で取り壊されることになり、それをきっかけに北海道に戻ろうと決意。夢だったクラフトビール造りに挑戦することにしました。

移住先を沼田町に決めたのは、2019年秋に参加した移住フェアがきっかけです。妻と現在5歳になる娘を連れての移住なので、子育ての環境が一番重要でした。正直、子ども手当などは東京も手厚いのですが、小・中一貫・連携教育などの取り組みが素晴らしいと思いました。

移住定住応援室の方々はとにかくあらゆる質問に答えてくれて、レスポンスも早く、移住への不安はまったく感じませんでした。むしろ、希望ばかり。クラフトビール造りに関しても協力的で、地元の農家さんがさっそくホップづくりに着手してくれています。現在、準備中ですがＪＲ石狩沼田駅の駅舎を使って交流スペースづくりにも取り組んでいます。

田舎暮らしといっても、沼田町内でなんでも完結できるので不便は一切感じません。一年目の冬に例年にないほどの豪雪を経験し、びっくりしましたが、除雪は完璧で、そのことにも驚かされました。沼田町に移住して、家族との時間が増えたことが一番の贅沢だと思っています。

今の生活には自由に使える時間がたっぷりあるので、趣味を持たないと逆にもったいないと感じます。夏はスケートボード、冬はスノーボードなどの趣味にも時間を使って行きたいですね。また、子育ての環境については、自然も多く、コロナ禍で不安が多い中、子どもがマスクを外して公園でのびのびと遊べるのは、本当にうれしいことです。

今後は数年のうちに、沼田町産のクラフトビールを完成させ、駅舎を使った交流スペースの実現を果たしたいと頑張っています。そして応援してくれる沼田町民のみなさん、地域の子どもたちに還元できることをしていきたいと思います。